# お爺さんのトランク　～色丹島出身の中田　勇さん～

中田勇さんは色丹島斜古丹で生まれ、お爺さんの葭次郎（よしじろう）さん、お父さんの吉顕さん、お母さんのキヌさん、次男の勇さんを含むきょうだい七人の十人家族で、終戦の時、勇さんは十七歳でした。

お爺さんは、色丹島で軍馬用の馬を七十頭も飼育していたほか、東旭川に水田を買うなど幅広く事業をされていたそうです。勇さんは、島の自宅から学校までの距離が二十キロも離れていたため、根室で隠居していたお爺さんの家から根室の学校に通っていたとのこと。両親は島で漁師をしていたので、勇さんは夏休みや冬休みには島に帰っていたそうです。

昭和二十年七月の根室空襲で根室の家がダメになったので、お爺さんと一緒に島に渡りました。終戦後、ソ連軍が侵攻し、勇さんの家にもロシア兵が入ってきて、逃げも隠れもできなくなり、強制引き揚げまでの二年間一緒に生活したとのことです。

このゼニガタアザラシの皮でつくられたトランクは、お父さんの吉顕さんが色丹島で獲ったアザラシの皮を根室でなめして、函館に送りトランクに加工したもので、昭和の初めに作られたものではないかとのこと。当時としては相当贅沢な物だったと思われるとのことです。

トランクは、お爺さんが金庫がわりとして使っていました。昭和二十二年十一月に樺太経由で函館に引き揚げてきた時にも、お爺さんはこのトランクに大事な証書などを入れて大切に持ってこられたそうで、その後、お父さん、勇さんと三代に渡り引き継がれている大切な思い出の品とのことです。